

令和 6 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (3)地域再生の核となる大学づくりに関する事業

申請組織 看護学部

申請組織長 役職名 学部長 教授 氏名 杉浦 美佐子

統括責任者 役職名 教授 氏名 小林純子

課題名 梶山『星が丘まちの保健室』

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	小林純子	看護学部精神看護学 教授	梶山『星が丘まちの保健室』開設事業統括としてすべてに責任を負う
		福田 由紀子	看護学部地域・在宅看護学 教授	梶山『星が丘まちの保健室』運営、企画立案、教室の実施
		杉浦 美佐子	看護学部基礎看護学 教授	運営、企画立案
		又吉 忍	看護学部地域・在宅看護学 准教授	運営、企画立案、教室の実施
		林 和枝	看護学部精神看護学 准教授	運営、企画立案、教室の実施
		川島 一晃	看護学部専門基礎 准教授	運営、企画立案、教室の実施
		中原弘喜	看護学部 助手	企画立案、教室の実施

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200字～300字程度で記述)

梶山『星が丘まちの保健室』は、地域住民の心身の健康、子育て、生活習慣病予防、認知症予防、介護などのさまざまな不安や困りごとを、気軽に健康に関する相談に応じる『ゆっくり語れる「場」』を提供する目的で実施した。

「まちの保健室」とは、学校に保健室があるように、地域にも気軽に行ける「よろず相談」ができる場所や居場所があるといいねというコンセプトで始まり、大学や全国の都道府県看護協会で開催されている。

本事業では、少子高齢社会において重要な予防活動を進め、学生や教員の知的活動の活性化を図り、地域社会の学生ボランティアや教職員の派遣などのライフサポーターとしての存在となることをめざして取り組んだ。梶山『星が丘まちの保健室』の事業の対象は、幅広い年齢層のすべての地域住民である。学生は、それぞれの学習状況に応じて参加し、地域で暮らす住民の方々とふれあい、経験を重ね、地域における看護活動を学ぶことができた。

2. 事業方法（特色・独創性）等（300字程度で記述）

「まちの保健室」は、人々が集まる場として「まちの保健室」を開設している。さらに、新型コロナウイルス感染拡大により、リアルに交流が持てなくなった時期があったため、地域ではICTを活用したコミュニティづくりが盛んに行われている。その中で、集まることができなくてもコミュニケーションは取れるよう、椛山『星が丘まちの保健室』ではICTを活用したリモートによる「まちの保健室」開催のため、今年度は下記を実施した。

- 1) 椛山『星が丘まちの保健室』の広報活動
- 2) 行政組織と連携した椛山『星が丘まちの保健室』の開催
 - ・「認知症について学ぼう」
 - ・スマホお悩み相談室
 - ・認知症サポーターフォローアップ講座

3. 事業の成果（600字～800字程度で記述）

1) 椛山『星が丘まちの保健室』の名称を考案・広報活動
看護学部の学生から椛山『星が丘まちの保健室』のキャッチコピーとネーミングを公募し、『椛山まちの保健室「椛サポ」』と決定した。さらに、広報のための媒体を作成した。また、千種区・名東区等の地域の活動に参加し、地域のニーズの把握を行った。さらに、広報活動を行った。

2) 千種区・名東区のいきいき支援センターと協働し、看護学部1年生を対象に認知症サポーター養成講座を開催している。この活動を基盤として、1年生から地域におけるボランティア活動に積極的に取り組むことをめざしている。また、椛山『星が丘まちの保健室』のICTを活用したリモート開催の実施をめざし、一番身近なデバイスを携帯電話とし、高齢者がICTを活用できるよう「スマホお悩み相談室」に参加した。

実施内容は下記のとおりである。

①「認知症について学ぼう」 10月26日

日程：10月26日 開催場所：星が丘テラス

共同：千種区東部いきいき支援センター

認知症の啓発活動として、認知症啓発「紙芝居」の実演や参加者への認知症の症状や関わり方の説明を行った。

②スマホお悩み相談室

日程：7月19日・7月26日・8月2日 学生6名参加

予定：2025年3月11日・12日 学生4名参加

共同：名古屋市名東区南部いきいき支援センター

携帯電話の使い方やSNSの方法等、参加者の困りごとを支援した。

③認知症サポーターフォローアップ講座

日程：12月16日 学生9名参加

共同：名古屋市名東区南部いきいき支援センター

4. キーワード（本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載）

①まちの保健室	②地域住民	③学生	④ICT
⑤健康教室	⑥ボランティア活動	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題（事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。）

【課題・反省点】

今回は、企画していた椙山『星が丘まちの保健室』を大学主催としてできなかった。理由として、新型コロナウイルスの終息を迎えてもなお、実習施設からの新型コロナウイルス感染予防の徹底等で、地域住民が参加しての健康教室等の開催が困難であったためである。次回の開催のため、実習時期を考慮し『椙山まちの保健室』を開設するよう検討中である。また、今後は子どもを対象とした『椙山まちの保健室』を企画したい。

【今後の取組み】

次年度の学生と地域住民の交流会や健康教室等の開催に向け、地域住民、特に高齢者が参加しやすい時期、開催場所（施設）を検討する。開催場所は大学周辺とし、『椙山まちの保健室』として、千種区、名東区の行政組織と連携した企画・活動に積極的に参加する。また、多くの看護学部教員と連携し、学生とともに実施する。さらに、総合学部の強みを生かし学部を超え、多くの先生方と連携を図り、『椙山まちの保健室』の活動を推進したい。